



平成十九年度
本山団参

去る11月11日より2泊3日の旅程で、久しぶりに檀信徒有志の皆さんとともに大本山妙心寺に参拝してまいりました。今回は毎月12日に行なわれる開山月忌参拝、花園法皇御陵参拝等、通常の京都観光ではなし得ない体験をして頂いたものと自負しております。現在妙心寺では来年の妙心寺開山無相大師650年遠諱にむけての準備が進んでいます。当山では4月初旬の遠諱法要に参加を予定しております。京都国立博物館で開催される「妙心寺展」も拝観する予定です。遠諱とは本山の特に大切な祖師のために50年に1度だけ営まれる法要です。遠諱は開山無相大師、花園法皇、法皇と併修される日峰禅師、興祖微妙大師、六祖雪江禅師の為に営まれますが、今回の無相大師関山慧玄禅師は言うまでも無く、妙心寺派の寺院にとって最も大切な方であり、私達の決して長くは無い人生を省みた時、50年に1度の開山様の遠諱に参拝出来る



花園法皇御陵

言う事は、この上無い法縁の巡り合わせと言えらるでしょう。是非来年は万障お繰り合わせの上、沢山の檀信徒の皆さんが参加されます事を切望致します。

インド佛蹟巡拝

佛教の開祖であるお釈迦様の旧跡を八大佛蹟と呼びます。これはルンビニー、ブダガヤ、サルナート、ラージギール、ヴァイシャリー、サンカーシヤ、サーパッティ、クシナガラなどの八ヶ所を言いますが、サンカーシヤなどは他の佛蹟から遠く、不便な場所にありますので、8つの聖地を1度の旅行で巡拝することは、あまり行われないうのが普通です。昨年12月13日出発12日間に渡るインド・ネパールの旅は、上記の八大佛蹟にインドの代表的な観光地であるアグラのタージマハールを含めた見所満載の巡拝旅行でありました。以下に今回訪れた各佛蹟の様子をご報告致します。



ブダガヤの菩提樹



◎サルナート

サルナートはガンジス川のガート（沐浴場）で有名なバラナシの郊外に位置し、漢訳の經典では鹿野園と呼ばれます。サルナートとは鹿の王という意味です。ここはお釈迦様が5人の修行仲間（五比丘）に法を説き、さらには現地の富豪の息子ヤサを得度し、その両親を信者とする事によって、佛、法、僧の三宝が完成した場所と信じられています。サルナートはバラナシ郊外という佛蹟



鹿野園のシンボル ダメークの塔

中では非常にきれいな場所であったという記憶があります。この場所のシンボルであるダメークストゥーパは高さが32メートル、大唐西域記によれば弥勒菩薩がお釈迦様に未来の成佛を約束された場所、現地の説法は、お釈迦様が五人の比丘達に二度目の説法をした場所に建立されたものとされます。周囲にはきれいな彫刻が施されていますが、

通の便の良い場所にある為か、早い時期から整備の進んだ聖地でもあります。私がお参りしたのは30年以上前のことですが、当時から遺蹟の公園化がなされており、インドの

正崩しの文様などは、今日我々が掛軸の表装や袈裟の地紋の柄として見かけるもので、日本文化の源流に接する思いがします。これら遺蹟群の多くはグプタ時代（4〜6世紀）のものと考えられます。遺蹟に隣接してムルガンダクティというお寺があります。これは旧跡の中に基礎のみが残る寺院名に由来するもので、ムルカンダクティとは初転法輪という意味だそうです。この寺院は大菩薩会の創始者であるダルマ・パーラ師が1931年に建立したものです。内部の障壁には日本画家である野生司香雪画伯により佛伝画が画かれています。ダルマ・パーラ師は仏教が世界宗教であることをインド国民に知らしめる為に、外国の芸術家の手で、他に例を見ない佛伝画を作成したいと考えました。そこでアジアの果ての佛敎国日本が着目され、さらに野生司香雪画伯がこの任に抜擢されたのです。コンクリート壁に着色を施すには困難を極め、途中で資金不足に陥る



釋尊降誕のシーン

などでしたが、香雪画伯は個展を開き絵画を売って資金を調達するなどして、昭和7年から11年の期間にこの障壁画を完成させました。

尚この寺院の建設資金はメアリー・フォスターというハワイ出身のアメリカ人がダルマ・パーラ師に寄進したもので、佛伝画の基金はイギリス人のプロートンという人が寄進しています。ダルマ・パーラ師が意図した通り、国籍を問わぬ多くの佛敎徒の努力でこの寺が建立されたのです。

前述の通り早くから遺蹟整備の進んだ鹿野苑は佛法僧の三宝が完成した聖地であるとともに、よく整備された公園として非常に心地良さを感じさせてくれるところだ。また隣接するサルナート博物館にはインドの仏像の中で最も美しいとされる初転法輪印をした釈迦牟尼像、インドの象徴とも言える獅子を冠したアシヨカ王柱が安置されています。

◎ブダガヤ

お釈迦様成道の地です。4年程前より先任職の縁により、同地の印度山日本寺の役員に就任した為、毎年ブダガヤにはお参りしています。世界遺産に登録されたブダガヤですが、これにより大塔周辺の整備がなされ、今回は周辺民家の立ち退き、参道周辺にあったチベット人露天商等の移転、ホテルも飲酒禁止になる等の施策



ブダガヤ大塔前にて



スジャータ村

が行なわれていました。大塔の境内に入ると沢山のチベット僧に圧倒されます。大塔内部はさながらに満員電車のように、皆それぞれの祈りの場所を確保し、熱心に手を合わせています。日本人のブダガヤ参拝者の中には大塔は人が多すぎて、落ち着いてお参り出来なかったという感想を持つ方もいるようですが、数ある佛蹟の中でも最も重要な場所である悟りの地でありますから、大勢の参拝者の存在は、むしろ仏教徒として誇りに感ずるべきであります。

大塔から十分程歩くと、お釈迦様が成道以前に沐浴し英気を養ったネイランジャラー河があります。今回はまだ水がありませんが、二月頃に訪れると殆ど水が流れていません。今回私は舍利容器作成の為に、各佛蹟で土砂を採取してきましたが、ガラス容器を作成するために必要な砂がもつとも採取し易い場所がこのネイランジャラー河で、私が砂を袋に入れていくとクリケットをして遊んでいた子供達が、物珍しそうに手伝ってくれました。尚このガラス製の舍利容器を作成してくださるのは秋保でガラ

ス製作をされている村山耕二氏で、本堂改修の際には本堂廊下の照明を作成して頂いています。

話を本題に戻しましょう。ブダガヤ周辺はお釈迦様が苦行された場所、或いはスジャータという女性から乳粥の供養を受けた場所、拝火教とを済度した場所などお釈迦様の旧跡が点在しています。中でもスジャータがお釈迦様に乳粥を施した話は、日本でも良く知られており、仏教が苦行と快樂の道の両極端な修行方法を否定する中道の教えの根拠ともなっています。スジャータカ(本生経)によればスジャータという方はこの周辺の村の地主の娘で、ある神木に良縁に恵まれ健康な長子が誕生するようにと願を掛けていたのですが、見事その念願が成就しましたので、召使いのブンナーを使わして御礼に神木に乳粥を供えに出向かせたところ、ブンナーはお釈迦様と出会い、その神々しい姿を一目して、樹木に宿る神であると思ひ乳粥を供えたということになっております。以前この地を巡拝した際には畑の間のあぜ道を歩き、小山を超えてビルマの方が作った祠に参拝しましたが、その後この地の発掘が行なわれ、祠に行く際に通ったレンガの露出した小山こそが、スジャータの供養の地であったことが判明しました。今回はきれいに発掘された遺蹟に参拝する事が出来ました。遺跡の周りにはインドの典型的な農村ですが、遺跡と隣接し学校があり参拝者に寄付を求めてきます。

お釈迦様の成道以前に、現在は前正覚山と呼ばれる山を成道の地と定めた事が玄奘三蔵の大唐西域記に記されています。お釈迦様は同山のある洞窟を菩提の座と定めましたが、地震が起き洞窟が崩れたものから浄居天の進言により山を下り、金剛の如き地盤を有するという菩提樹下に座を移したものと伝えられます。西域記によれば洞窟を住处としていた竜王が、お釈迦様に洞窟から去らぬよう懇願しますが、お釈迦様は洞窟内に自らの影を残し、立ち去ったのだそうで、信心深い人が洞窟内を凝視すると、その御影に見える事が出来ると言います。現在はお釈迦様由縁の洞窟とは思いませんが、チベット僧が守る洞窟があり、苦行佛が安置されています。

前正覚山はブダガヤの町から車で一時間程度の道のりです。直線距離は差ほどでもないのですが、ガヤの町まで迂回して参りますので時間がかかります。ガヤを経由した際にはガヤ山という山の前を通ります。ガヤ山は漢訳經典では象頭山と訳されます。お釈迦様がこの地方の有名な拝火教の教祖であったカッサバ三兄弟とその弟子達千名に、この世界は様々な欲望により燃えている



ネイランジャラー河

ようだと説き、執著から離れることの肝要さを説法した場所だと伝えられます。お釈迦様はブダガヤで悟りを開いた後、前述の鹿野苑で六十人の弟子を済度し羅漢漢にならしめ、それぞれを伝道の旅に出立させ、自らは単身ブダガヤ周辺に戻り、カッサバ三兄弟とその弟子達千名を自らの弟子にするのです。経典によればこの時お釈迦様は火を自在に操るカッサバに対し、それ以上の神通力を使い千人もの弟子を獲得するのがあります。後のお釈迦様の家風とは異質な、若々しさを見る事が出来ます。因みにお釈迦様はお経の中で（例えば金剛経の冒頭がそうですが）「千二百五十人の修行僧と共にある」という表現で描写される事が多いのですが、この内の一千人とはこのカッサバ三兄弟とその弟子達のことを指し、残りの二百五十名は後にお釈迦さまの高弟となる舍利弗尊者と目連尊者を含む、サンジャという懷疑論者の弟子二百五十名を指します。

残念ながらブダガヤは商魂逞しい数珠屋のせいで、日本人参拝者にとつては不快な佛蹟と評価されてしまっているようです。彼らは決して悪人ではないのですが、商品には定価があるのが常識の日本人にとつては、ある意味詐欺師のように映ってしまうのかもしれない。勿論意図的に作られたガラクタを骨董品と称して売っている者などは、厳密に言えば詐欺ですが、我々も一般的な常識をもって、彼らの薦める骨董品

を見れば、悪い冗談ですむような粗悪なものばかりで、騙されることは無いと思うのですが…。

◎ ラージギール

ラージギールはお釈迦様の外護者であったピンビサーラ王が治めたマガダ国の都であります。ピンビサーラ王はお釈迦様が出家して間もなく、苦行者であったお釈迦様と会っています。町を托鉢しているお釈迦様の姿にただならぬものを感じ取った王は、家来に命じお釈迦様の居場所を探させ、自からお釈迦様のもとを尋ね、自分と一緒にインドを征服しようと持ちかけます。お釈迦様はこの願いを断り、王もこれをあきらめますが、王はお釈迦様が悟りを得て佛となつたあかつきには、必ず外護者になることを約束してお釈迦様と別れます。予断ですが、出家したばかりのお釈迦様は、王宮の生活と修行生活のギャップに苦しんだこともあつた様で、ジャータカによれば、初めて托鉢をして食物を得たお釈迦様は、その



ラージギールの城壁蹟

食物の不味さに閉口し、思わず食事を戻しそうになつたが、必死の思いでこれを飲み込んだということが伝えられます。

成道の後にラージギールに戻つたお釈迦様の様子は、威風堂々たるものがありません。

何せ有名な宗教者であるカッサバ三兄弟を始め千人の弟子達を伴つてラージギールへ入城したのですから、ピンビサーラ王も再会を喜ぶ以上に驚異を感じたよう

で、最初はカッサバ達を弟子にした事を信じなかつたようでもあります。しかしお釈迦様の成道を確認したピンビサーラ王はお釈迦様に帰依し、教団の為に町の喧騒に煩わされず、しかも托鉢の便を図つて町から遠すぎない場所の竹林を寄進しました。これが佛教教団最初の寺院である竹林精舎です。現在の竹林精舎はその名の通り竹が植えられ、沐浴場であつたという池が復元されています。しかし他の佛蹟に比べると、実際に寺の中心があつたとされる場所は未だ手付かずの状態であり、今後の発掘が待たれます。

ラージギールには前述の竹林精舎を始め靈鷲山ウリキョウサン、七葉窟、ピンビサーラ牢獄、ジヴァカジヴァカの住居址等沢山の旧跡が点在しています。靈鷲山はお釈迦様がラージギールに滞在される際によく留まられた場所です。法華経の舞台となることから、漢訳佛敎圏では「常在靈山釈迦牟尼佛」というようにお釈迦様の代表的な居場所として語られます。私達禪宗の者にとつてはお釈迦様から大迦葉（マハー・カッサバ）へと法が伝え



竹林精舎

られた場所であると伝えられ重視されます。ある時お釈迦様は、開法の為に集う多くの弟子達に対し、梵天より託されたコンバラ華という花を差し出します。お釈迦様の説法を待つ弟子達は、お釈迦様の行動に対し黙したままでしたが、独り大迦葉のみがにつこりと微笑され、お釈迦様は「吾に正法眼蔵、涅槃妙心、実相無相、微妙の法門あり、摩訶迦葉に付嘱す。」と仰って大迦葉がお釈迦様の教えを継いだ弟子である事を宣言されたのです。私



山鷲霊

達妙心寺派の僧侶にとつて、この逸話は非常に大切なものがあります。何故なら妙心寺という寺号、正法山という山号、開山様の大師号である無相、二祖の大師号である微妙の語源はすべてこの話に由来するものだからです。因みに妙心寺派では梵天を花園法皇に、花園の離宮をコンバラ華に、お釈迦様を開山様の師匠である大燈国師に、大迦葉を開山無相大師に、それぞれ充当してこの拈華微笑の話を理解しています。

ピンピサーラ牢獄は、お釈迦様に帰依したピンピサーラ王が息子のアジャントサットゥ王に幽閉され殺されたところです。ピンピサーラ王は長く子供に恵まれず思案していました。あるとき占い師に見てもら

と、「貴方のお子様生まれ変わるべき方が未だ亡くなっておりません。貴方のお子様生まれ変わる方は山に住む仙人であります。あの方が亡くなるまでは、貴方は子宝に恵まれることは無いでしょう。」ということです。輪廻が現前たる事実であるインドの思想では、人が生まれる為には、その人に生まれ変わるべき人が亡くなるということが条件となります。ピンピサーラ王は後継者欲しさに、こともあるのかその仙人を殺してしまいます。この後、王妃韋提希夫人は懐妊し無事に出産を果しますが、子供を占い師に見せたところ、必ず将来父親を殺害するであろうという予言を受けます。これを畏れたピンピサーラ王は楼閣の上から待ちかねた筈の吾子アジャントサットゥを落とし命を奪おうとしますが、赤子のアジャントサットゥは指を怪我したけだつたといえますから余程強い生命力をもつた子供だったに違いありません。このような恐ろしい出生にかかわる出来事があつたにも係わらず、ピンピサーラ王はアジャントサットゥを大切に育てたようで、出生の秘密を知るまではアジャントサットゥも王子として健やかに成長したようです。しかし、お釈迦様の従兄弟で、お釈迦様から破門された修行者であるデーヴァダッタからこの秘密を聞かされるや、アジャントサットゥ王は復讐の念を抱くと共に、王位を速やかに得んとしてピンピサーラ王を牢に閉じ込め、食事も与えず殺害しようとしたのです。

しかし、不思議な事に幽閉され、食事も与えていないピンピサーラ王はいつまでたつても健康で衰えることがありませんでした。アジャントサットゥはこれを不審に思い獄卒を問いただしたところ、韋提希夫人が面会の度に身体に蜂蜜を塗りさらに小麦粉をまぶし、首飾りにブドウジュースを入れ、それらをピンピサーラ王に与えていたというではありませんか。アジャントサットゥは是を怒り夫人の面会をも禁じてしまったのです。

この夫人の面会を禁じてから程なく、次のような出来事がありました。アジャントサットゥ王の子供は皮膚病を患っており、身体の所々に膿をもつた湿疹が出来ていました。子供はアジャントサットゥは膿を口で吸ってあげたと言います。ところがアジャントサットゥが口にたまった膿と血液を地面に吐き出したところ、子供がその膿を見て非常に驚き泣いてしまったのです。韋提希夫人はそれを見てアジャントサットゥ王の子供の頃を思い出しました。実はアジャントサットゥ王も同じような皮膚病をもっており、ア



牢獄の蹟

ジャセと同じようにピンピサーラ王もそれを口で吸ってあげていたのだそうです。しかし、ピンピサーラ王は膿や血を見せると子供が驚くと思



幼稚園だより



節分豆まき (中央)



成道会お遊戯会



芋掘り遠足



お店やさんごっこ (中央)



大運動会
(中央)



もちつき (中央)



達磨まつり (中央)



塩釜中央
幼稚園



塩釜第二
中央幼稚園



たのしいおもいでいっぱいの一ねんかん



芋掘り遠足 (第2)



お茶のお稽古 (第2)



もちつき (第2)



成道会お遊戯会 (第2)



節分豆まき (第2)



大運動会 (第2)

新規墓地

昨年春以来工事を進めてまいりました新規墓地が昨年12月に完成いたしました。来る3月16日より現地での説明会を催します。ご親戚の方々にご紹介頂ければ幸甚と存じます。

お知らせ

長年にわたりご愛顧頂きました東園寺研修センターザゼンクラブが3月31日をもって閉館致します。ザゼンクラブは平成4年当時まだ副住職であった小衲が新たな法縁を築く為の拠点として、先住精道和尚の許しを得て開いたものですが、昨今は本務である寺と幼稚園が多忙でザゼンクラブの運営までには手がまわらぬこともあり、今回の閉館に至りました。今後の施設の活用に関しては、檀家信徒の方々への為の通夜会場として使用することを検討中です。

その膿を飲み込んでいたというのです。アジヤンタサットウ王はその話を母親から聞くと自分の犯した過ちに氣付き、牢獄へと向いますが、牢獄についてみると既にピンビサーラ王は絶命していたのです。



温泉精舎(ラージギール)

アジヤンタサットウ王は自責の念に借られ、ひどい病氣にかかってしまいました。侍医ジージュアカはアジヤンタサットウ王の病氣は身体の異常ではなく、心の病であると、お釈迦様に帰依する事を薦め、王はこれに従いお釈迦様の信者となります。お釈迦様の入滅の後、お釈迦様の教えを確認する為の会議が、このラージギールの七葉窟で開催されますが、王はこのときに会議に対する物質面での援助をおこなっていません。七葉窟はインドでは珍しい温泉が沸いているヒンズー教の寺院の後ろに聳える岩山の上部にあります。片道二時間以上もかかりますので、今回は登りませんでした。

このラージギールには法華ホテルがあります。今回は昼食のみで宿泊はしませんでした。今回は日本食しかもジャポニカ米が食べられるので、インドの食事の苦手な方は大いに活きます。また部屋が和風である上に大浴場まであります。本当に旅の疲れが癒されます。私は以前にこのホテル

でマッサージを受けた事がありますが、仙人のような風貌をした老人の技術はなかなかのものでした。思いのままに文章を綴っておりまして、予定の文字数を超えてしまい、八大佛蹟の中の三つしか紹介出来ませんでした。今回の原稿が不評でなければ次号に続きます。

(お詫び)

また今回のインド旅行は例年以上に朝の冷え込みが厳しかったためか、体調を崩された方も多く、さらには帰国後に6名の参加者がA型肝炎を発症され、主催者として旅程の計画と宿泊施設の選定に関して大いに反省すべき点がございました。先ずはA型肝炎に感染された方々に心よりお見舞いを申し上げると共に、主催者として至らぬ点がありましたことを深くお詫び申し上げます。私自身も今回A型肝炎に感染した一人ですが、渡印歴10回以上にして初めての経験であり、改めてインドの風土の厳しさを思い知らされた気が致します。A型肝炎は主に戦後生まれの方が感染する病気で(60才以上の日本人は抗体をお持ちの方が多そうです)、予防接種で防ぐことが出来ます。今後渡印を検討されておられる方は、是非予防接種を受けられることをお奨めいたします。

成也 合掌



これからの行事

花祭りの夕べ 4月6日(日) 午後4時 東園寺

懐かしい童謡コンサートと法話!

◆静岡沼津大聖寺住職/上村貞嘉師
◆会費 3,000円 (高校生以下1,000円)

どなたでも参加できます。チケットはお彼岸中に寺務所でお求め下さい。

東園寺ホームページ
<http://www.toenji.com>

毎月10日前後に更新しています。
東園寺中興開山曹源祖水禪師の行状記が読める他、所蔵墨蹟の紹介(寺庫紹介)、住職の法話のページ(ほら貝)など気軽な内容です是非ご覧ください。

宗教法人 東園寺	〒985-0026	塩釜市旭町4-1	022(362)0777	寺務所
学校法人 東園寺学園	〒985-0012	塩釜市芦畔町13-51	022(362)8651	中央幼稚園
代表役員 千坂成也	理事長 千坂秀也	花園会・会長 阿部久壽	022(365)5616	第二中央幼稚園
			022(364)4444	FAX
			022(356)2933	ザ・ゼンクラブ